

越中一宮

高瀬神社社報

第42号

平成26年7月1日

越中高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ



『我』。

戯言のはじめにこんな漢字を書いてみました。どのように読むと良いのでしょうか。辞書には「ガ」や「われ」というふうにより仮名がついています。また、その意味は「われ」「自身身」「自分への執着」「かた意地」などと解しています。使い方は「我を張る」「我の強い男」「我を折る」「我を殺す」などという使い方をします。どうして『我』という字が気になったかといいますと、現在の国会の様子を見ていてふっと頭に浮かんできたのです。国会とは国権の最高機関であって、唯一の立法機関であり、そこで働く国会議員も権威ある方々だと思っていたのですが、国会中継を見たり、新聞

を読んだりして各政党や議員たちが主権者たる国民を抜きにして、我が身、我が党のことを最優先で国政にあたっている姿から私のイメージしていた国会と違って思うように思えてきたのです。また、テレビの宣伝も消費者のためになる商品の紹介ということではなく、何十万個販売できましたとか、番組限定ですとか、すばらしい栄養剤が何%入っていますとか、大げさな表現になっているように感じます。消費者を騙してでも、とにかく販売実績をあげる、いわば儲け第一主義という宣伝ではないでしょうか。商道徳というものがあるはずで、今の状況は少々程度が過ぎてるように思います。どうすればお客様が

ついて来るのか、再考すべきではないでしょうか。国会やテレビCMのどちらも『我』という自己中心の考え方が見苦しく、国民や視聴者の心をつかめない原因になっているように思うのです。

今から十年前に世を去った私の父から「禍事・まがごと」縁起の悪いこと」は「誠・まこと」事実の通りであること」の中に『我』が入ると「禍事」になると教えてくれたことを思い出しました。今の世の中がどのように変わっていても国民が平和で幸せで豊かな生活ができればいいのですが、「我田引水」物事を自分の利益となるように誘導することばかりが罷り通る世の中になれば悲しい社会へと変わってゆくと思います。

現在、世の中で起きている諸問題のほとんどは『我』が関係するのではないかと思います。外交問題では逆に日本の『我』

もりたいものです。中国、韓国が靖国神社や従軍慰安婦の件で雑言を吐いています。これも自国の政治状況安定化のための施策でしょう。これに同調して我が国の国会議員までが参拝を批判したり、中国・韓国寄りの発言をしたりすることなどは一体どういうことなのでしょう。きつと何か自分に利益があるのでしょうか。商売において利益の追求は結構なことですが、それにしても良心のもとに反省しながら迷惑をかけずにそれを実現できるようにしてゆくことが大切であろうと思います。

「我を張らず」「我を殺して」暮らす。時には「我を出して」守るべきものを守る。このようになメリハリが肝心です。『我』によって世の中を破滅に導かないよう一人一人の心がけが大切で「無我の境地」に到達するための修行のつもりで毎日を過ごしたいものです。

祭事暦

春季祭(大祭)

四月十日午前十時より「春季祭」が行われ、今年一年の豊作と平安を祈願しました。

祭典では宮司祝詞奏上の後、巫女が神楽「浦安の舞」を奉奏。続いて「高瀬神社奉賛歌」を奉唱しました。

祭典終了後には日展入選作の絵画「樹暦」を奉納された、日本画家で日展会友の津幡光清さんに、感謝状と記念品が贈られました。



祈年穀祭(大祭)

六月十日午前十時より「祈年穀祭」が斎行され、氏子崇敬者をはじめ農業関係者約四十名と、農作物に病害虫の災いがないよう、御神火を焚いて豊作を祈願しました。

御神前で御神火が灯され、宮司が祝詞を奏上。大前に砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛が供えられ、参向使を務める小橋昭夫となみ野農業協同組合専務理事による祭文が奏上されました。



引き続き奉仕員・参列者全員が境内大鳥居前に整列し、古来より「誘蛾灯」として用いられた「かがり火」に点火し、本年の無事を祈り拝礼しました。また、この祭儀にあわせて高瀬奉納者の感謝状贈呈も行いました。

翌十一日には御神火を伴って、神輿が砺波広域圏四農協の本店を渡御しました。組合長以下職員総出で神輿を迎え、御神火を蠟燭に分火し、お祈りしました。



神輿巡渡御行程

- ← なんと農業協同組合
- ← 福光農業協同組合
- ← いなほ農業協同組合
- ← となみ野農業協同組合

感謝状贈呈

(株)藤井組

代表取締役社長 藤井秀之殿



献穀田だより

「御田植祭」斎行

奉耕者 農事組合法人ファーム八乙女（篠原勇吉代表）
井波地域中核農業士協議会（吉川順一会長）

早乙女奉仕者

五月二十五日、南砺市沖（井波）の献穀田で「御田植祭」が斎行されました。
大勢の関係者が見守る中、早乙女姿の女子中学生五名が、篠原勇吉ファーム八乙女代表より、「コシヒカリ」の苗を受け取り、心を込め丁寧に植えました。
九月中旬には「拔穂祭」を行い、収穫した稲は「懸税」として伊勢の神宮に奉納されます。



南砺市高瀬

中嶋 功・千佳代ご夫妻
（千歳会）

岩倉 勲・友子ご夫妻
（千寿会）

南砺市北市

江川 芳和・由紀子ご夫妻
（静寿会）

川田 義治・順子ご夫妻
（静寿会）

川田 哲昭・静江ご夫妻
（静寿会）

南砺市三清東

三川 昭男・美和子ご夫妻
（福寿会）



我が家の人生儀礼

「人生儀礼」とは、人がこの世に生まれ、一生の間に行う神事儀式の事です。

祖先から伝えられた人生儀礼の一つ一つを大切に、感謝の心を持って生活しましょう。

今回は、「端午の節句」の様子をご紹介します。



南砺市高瀬
山田 哲輝くん



※端午の節句は、男の子の成長と立身出世を願う行事です。「甲冑」や「鯉のぼり」を飾りお祝いします。

高瀬神社奉賛歌



当神社では元日の歳旦祭、四月十日の春季祭、九月十三日の例祭で「高瀬神社奉賛歌」を奉唱します。

この奉賛歌は大正十二年六月五日、当神社が国幣社に昇格した際、作詞を芳賀矢一氏、作曲を本居長世氏に依頼し、児童生徒らが祭日に御神前で奉唱していました。

その後、時代の流れとともに一時中断されましたが、平成十一年に当時井波町助役であった竹村武夫氏が復活を呼びかけ、責任役員の岩倉節郎氏が大切に保存していた歌集・楽譜をもとに、地元「いずみコーラス」によつて

録音されました。

平成十二年元旦午前五時齋行の「歳旦祭」に責任役員岩倉節郎氏、井波町長清都邦夫氏、町議会議員山田富雄氏をはじめ、氏子崇敬者約五十名が参列し、祝詞奏上、神楽舞に続き「奉賛歌」が流れると、氏子の方々は幼少の頃を思い出して大きな声で合唱されました。祭典後も思い出話に花を咲かせておられました。

この様な経緯から、この歌は皇紀二千六百六十年（平成十二年）を記念して復活することになりました。

高瀬神社奉賛歌

作詞 芳賀矢一
作曲 本居長世

- 一、国造らしし大神の 勲高瀬の御社は
中世昔に聞こえたる 越中の国 一の宮
- 二、この大宮の何故か 久しく埋もれ居ししを
旅のお川の再びし 現れませる尊々よ
- 三、家の勤めを怠らず 皇ら御国に 尽くさんと
大和ごころを焼太刀の 砺波の神よ護りませ



結びのお守り



平成二十六年五月より神前結婚式を挙げた新郎・新婦に、結びのお守り「えんじゅ」を授与しております。縁起の良い「えんじゅ」の木玉を愛の結晶「しけ絹」の袋で大切に包み込んだお守りです。

「えんじゅの木玉(霊)」

「えんじゅ」の袋は「上品」「慕情」「純愛」、寿命を延ばす「延寿」、縁を授かる「縁授」といわれ、とても縁起の良い木とされています。



「しけ絹の袋」

二頭の蚕が奇跡的に出会い、力を合わせて一つの繭を作りだす事がごく稀にあります。

このような、貴重な愛の結晶でもある繭から、糸を紡ぎ織り上げています。

「しけ絹の刻印」

神話・因幡の白兔で大国主命に救われた「うさぎ」は、古来子孫繁栄の象徴とされ、縁結びに深い関係があります。

知恵を表す赤い目は、苦難を飛び越える姿を「向かいうさぎ」として、木玉に刻印しています。「しけ絹」「えんじゅ」共に南砺市に受け継がれる伝統の製法でつくられています。



北陸式内社顕彰会

六月二十五日、石川県白山市にて「北陸式内社顕彰会総会」が開催されました。

本年は本村井神社、笠間神社で正式参拝の後、グランドホテル白山にて、村山和臣会長（白山比咩神社宮司）を議長に議事が進められました。



翌日は松任金剣宮、栖本神社参拝の後、浅野太鼓（太鼓の里資料館）を巡る有意義な顕彰会となりました。

団体参拝のご案内

古来より人と人、心と心を結ぶ福の神・結びの神様であります「大国主命（大国様）」をおまつりする当社では、会社の参拝（安全祈願・創業記念日）、必勝祈願、同窓会記念参拝等の各種祈願を受け付けております。

お問い合わせは社務所へお願いします。

電話〇七六三（八二）〇九三二



観月祭のぶし案内

日時 九月六日(土) 午後六時より

一年のうちで最も美しい月とされる旧暦八月十五日「仲秋の名月」にあわせ「観月祭」を行います。

月明かりの下、大神様と共に神楽舞や雅楽などの奉納行事をご覧になり、更なるご神徳をいただきますしよう。

参集殿では御神酒・月見団子・湯茶を用意しております。

※ご祈禱入口からお入り下さい。

奉納行事

- ・神楽舞 (高瀬神社巫女)
- ・雅楽 (鳳鳴クラブ)
- ・謡曲 (高宝会)
- ・クリスタルボウル
ヒーリング演奏
(山森啓子さん)
- ・ファイヤーパフォーマンス
(HARUKIさん)



ぶし案内

戌の日 (安産祈願)

- 7月 2・14・26日
- 8月 7・19・31日
- 9月 12・24日
- 10月 6・18・30日
- 11月 11・23日
- 12月 5・17・29日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

奉納

○「金一封」

- 南砺市坪野 株式会社 藤井組
代表取締役社長 藤井 秀之殿
平成二十六年四月二十七日

○「参道玉砂利」

- 富山市八人町 株式会社 岡部
代表取締役 稲積 欣治殿

○「参道玉砂利舗設作業」

- 南砺市坪野 株式会社 藤井組
代表取締役社長 藤井 秀之殿
平成二十六年五月九日

○「境内剪定作業」

- 小矢部市津沢 株式会社 越路ガーデン
平成二十六年六月六日

○「鈴ノ緒白麻房」

- 氏子 大和 秀夫殿
平成二十六年 六月十一日



辞令

- 中井 直美 結婚式場支配人を命ずる
平成二十六年四月九日

今井映里奈

願いにより巫女を免ずる

平成二十六年六月三十日

編集後記

T・P・P交渉が大詰めを迎える中、田植えが行われました。日本の伝統文化を育む根本となった神道、そして稲作に関わる行事が、これからは厳粛に守り伝えられる事を切に祈ります。

【表紙写真】 鈴ノ緒白麻房

新バンケットホール OPEN!!



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、縁結びの神様をまつる神社として多くの神前挙式を執り行い、お二人の幸福を願ってきました。

この伝統ある神聖な儀式は大切に守りつつ、新たな家族との絆を深める日として、披露宴とウェディングのあるべき姿を見直しました。

明るい光に満ちあふれた新バンケットホールが、その晴れの日のステージ。

お二人のさらなる幸福を願う高瀬神社のウェディング。

縁結びの神様に誓う伝統の結婚式を挙げていただく、一生に一度の日だからこそ、一日一組のカップルの為だけに、このバンケットは生まれました。



只今
御予約
受付中

新バンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っています。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただけますよう、お待ちしております。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社



検索

発行日 平成二十六年七月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL(0763)8210933 FAX(0763)8213004

編集人 長谷川宏幸

印刷所 牧印刷株式会社